

友達と関わりながら、意欲的に学習活動に取り組む児童の育成 — 学習に困難さを抱える児童に配慮したグループ活動の工夫 —

特別研修員 特別支援教育 高地 朋見(小学校教諭)

目指す児童像 友達と関わりながら、意欲的に学習活動に取り組もうとする児童

学習に困難さを抱える児童に配慮したグループ活動

手立て2

話し合い活動での役割分担

- ・四人一組のグループ構成
- ・一人一人の役割の明確化
(司会・課題文を読む・掲示用に清書をする・発表)

意思表示場面の設定

- ・良いと思った考えにシールを貼る
- ・色の違うシールを用意し、誰がどの考えを良いと思ったのか視覚的に理解できるようにする

手立て1

どの子ども安心して学習に参加するための「学び合いの言葉」の提示

- (例) 「〇〇ちゃんの考えいいね!」「私と同じ考えだね!」
「〇〇君は、どう思う?」「ここ、わからないから教えて」「私の考えどうかな?」



児童の実態

- ・なかなか考えが思いつかないな。
- ・友達に聞いてみたいけれど、何て言えばいいの?
- ・何をやっているか分からないから、やりたくないな。



教師の願い

- ・友達と関わり合うことで学習意欲を高めたい。
- ・友達と学ぶよさを味わわせたい。
- ・関わり合う中で、自分の考えを広げさせたい。

授業実践 国語科「新聞を作ろう」

どの子ども安心して学習に参加するための「学び合いの言葉」の提示

手立て1

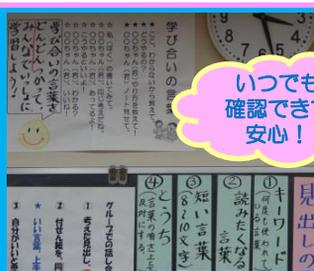
児童同士のやりとり



私もB君と同じでそれがいいと思ったよ。

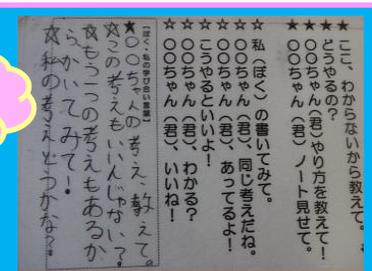
僕は、これがいいと思うよ。Aちゃんもどれがいいと思う?

教室に掲示してあるクラス全体の「学び合いの言葉」



いつでも確認できて安心!

机の上に貼ってある自分で考えた「ぼく・私の学び合いの言葉」



話し合い活動での役割分担

手立て2

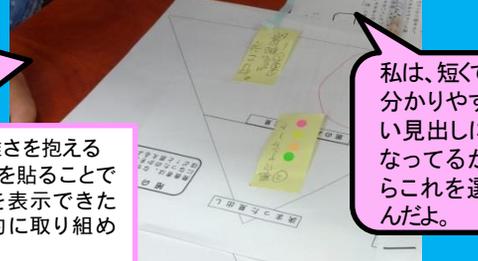
学習に困難さを抱える児童は、発表する役割を通して、「何て言って発表すればいいの?」と、グループの友達に聞くことができた。
教えてもらったことを生かし、自信をもって発表できた。



意思表示場面の設定

Cちゃんは、どうしてこの見出しを選んだの?

学習に困難さを抱える児童もシールを貼ることで自分の意思を表示できたため、意欲的に取り組めた。



私は、短くて分かりやすい見出しになってるからこれを選んだよ。

成果

- 「学び合いの言葉」があることで、学習に困難さを抱える児童は友達に聞きたいことを質問できるようになってきた。ほかの児童も積極的に質問したり、友達の考えに共感したりできるようになってきた。
- 個々の実態に応じた役割をしたことで、学習に困難さを抱える児童は達成感や友達に認めってもらうことで自信をもつことができた。
- 意思表示の場面では、色の違うシールを使用したことで誰がどの考えを良いと思ったのか視覚的に理解することができた。学習に困難さを抱える児童もシールを貼るという活動があることで意欲的に取り組めた。

課題

- 話し合いの場面ごとに使用させたい「学び合いの言葉」を教師が話し合い活動の前に提示する。
- なかなか話し合い活動に参加できない児童には、教師が「学び合いの言葉」を使って見せ、「学び合い言葉」の使い方を伝えることが大切である。
- 自分の役割のみを意欲的に行うだけでなく、グループでの話し合いの場面において、役割以外でも意欲的に取り組む方法を探る。